

希望の花

第70号（平成30年3月23日）

兵庫県立視覚特別支援学校 発行

〒655-0884 神戸市垂水区城が山4-2-1

TEL 078-751-3291

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~kenritsu-svn/>



平成29年度の終わりに 仲山校長

オリンピック、パラリンピックの興奮・感動の中、本校は平成29年度を終えようとしています。皆さんは、選手に負けないくらいに、この1年間で新しいことを学び、できることが増え、見違えるように成長しました。毎日の生活の中で、皆さんは確実に心身ともに成長しているのです。新しい学年・学部に進むこの節目に、この1年を振り返り、毎日の地道な努力がどれだけ大切か感じてほしいと思います。そして次の1年につなげるようにしましょう。

「ユーメッセージよりもアイメッセージを大切にした教育の場に」 下雅意教頭

ノート提出を忘れた子どもたちに次のように注意してしまうことはないだろうか？「今日はノートの提出日だったでしょ。なぜ約束を守らないの。」と。このように言われた子どもたちの反応はというと、「えーと……。だって……。」と言葉を詰まらすことが多い。提出を促す声かけのほすが、「あなたは何をやっているの！」という叱責に意味合いが変わり、「謝罪」か「沈黙」かの選択肢という窮屈な空気にしてしまうことが（自戒の念もこめ）往々にしてある。ところが、次のような言葉がけをするとどうだろうか？「今日、提出してくれたら安心だな。ノートがちゃんととれていたか気になるから。」と、「私」を主語にした言葉がけ。なんとなく、子どもたちから次に出てくる言葉がいろいろ想像できる。「ええ、そうなん。」「わかった。持ってくる。」「明日でもいい？」「ノートはちゃんととれている。」などなど。

確かにノート提出が遅れたことへの指導は必要だ。しかし、頭ごなしに（一方的に）言い放つのではなく、子どもたちが自分なりに考え前向きな返答ができる余地に配慮ができ、会話が弾むような場に変えられる力量と余裕が感じられる教師でありたい。

卒業証書授与式

3月8日（木）、本校体育館で第70回小学部・中学部、第93回高等部卒業証書授与式が行われました。小学部、中学部、高等部あわせて11名が旅立ちの日を迎えました。卒業生は、少し緊張した面持ちで、一人ひとり名前がよばれ、仲山校長から卒業証書を受け取りました。式辞の中で、AKB48の「365日の紙飛行機」の詞が引用され、はなむけの言葉として卒業生に送られました。式中、在校生は、心温まる卒業生との思い出を、卒業生は、在校中の楽しかったこと、辛かったこと、努力したこと、そしてお世話になった人たちへの感謝の気持ちを伝えていました。式後、卒業生は、在校生が作る花道を握手やお祝いの言葉に送られ、学び舎を後にしました。



幼稚部 修了式

3月13日（火）、幼稚部の修了式がありました。主役の2名は、おめかしし、胸にはコサージュをつけて緊張した面持ちで式に臨みました。暖かい春の飾りに包まれたプレイルームで、拍手の中を修了児が入場し、校長先生から修了証書を頂きました。スライドを見ながら幼稚部の思い出を振り返る場面では、修了児も含めてみんなで「ぼくたちのうた」や「こころのねっこ」を歌いました。幼小小学部の保護者も列席していただき、参加者全員が心暖かくなる式でした。

